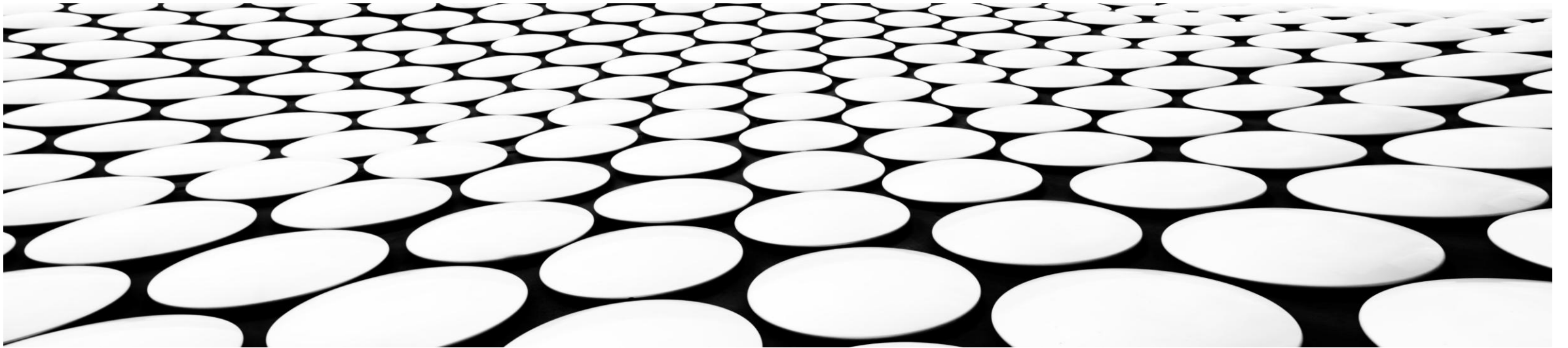

日本原子力学会 リスク部会・原子力安全部会 安全目標検討合同WG 安全目標WS

2026年3月31日 東京大学山上会館



プログラム

日時：2026年3月31日（火） 10:00～16:00

会場：東京大学本郷キャンパス 山上会館 大会議室

プログラム：

09:30～ 受付

10:00～10:05 開会挨拶（山本）

10:05～12:00 WGの検討状況としての論点の紹介

説明分担：成宮（1章、2.1、2.2）、小野寺（2.3、2.4）、成川（3章）

12:00～13:15 昼食休憩

13:15～15:00 意見交換 第一部（技術的な論点を中心に）（座長 成宮）

15:00～15:15 休憩

15:15～15:55 意見交換 第二部（社会との関係を中心に）（座長 山本）

15:55～16:00 閉会挨拶（成宮）

WSの目的

原子力学会のリスク部会と原子力安全部会は、合同の安全目標WGを設置し、2024年度、2025年度で安全目標にかかる検討を行ってきた。2025年3月には、それまでに議論した論点を活動経過としてまとめた経過報告書を発行した。

日本における安全目標にかかるいままでの議論を振り返り分析し、海外の安全目標の位置づけと使い方を調査し、そこで議論されてきたことと、1F事故後の原子力安全の取り組みを踏まえて、将来の安全目標の議論に資する論点として整理した。

2025年度はそれら論点の深掘りを議論してきた。本ワークショップにおいて専門家をパネリストとして迎え、参加者も含めた意見交換を行い、論点の充実を目的とする。

パネリスト（敬称略）

山口彰 原子力発電環境整備機構 理事長

市村知也 原子力規制庁原子力規制技監

片岡秀哉 原子力エネルギー協議会 理事

川村慎一 日立GEベルバニュークリアエナジー株式会社
技師長

小野恭子 産業技術総合研究所 副研究センター長

意見交換 第一部

1. 安全目標は必要か？決めた場合のメリットは何か？無ければ問題は何か？
2. 安全目標を頂点とする階層構造を日本で採用するとすれば、その利点は？問題は何か？問題は解決できるか？
3. 安全目標の役割として安全目標の論理構造（たとえば英国のようなBSO、BSL）を日本で適用することにはどうか？
4. 安全目標・性能目標をリスク情報活用に資する際にリスク評価の信頼性・完全性はどうか？

意見交換 第二部

1. 安全目標を社会と約束する必要があるか？あるいは社会へのメッセージで良いのか？
2. 社会と約束できた、あるいは社会へのメッセージを発信できたと言える状況はどのようなものか？それは達成可能か？
3. 安全目標は原子力施設の安全対策の妥当性(防護の最適化)を確認するために使用するのか？原子力利用の正当性を確認するために使用するのか？